

1 古墳や文人の足跡を訪ねる



所要時間 徒歩2時間

★190Kcal消費

我孫子駅(南口)→①我孫子駅・弥生軒→②日立精機2号墳→③根戸船戸2号墳→④船戸の森→⑤武者小路実篤邸跡→⑥嘉納後楽農園跡→⑦中勘助仮寓跡→⑧平和の記念碑(手賀沼公園)→⑨香取神社(緑)→我孫子駅(南口)

①我孫子駅・弥生軒 Map B-4

常磐線は1896(明治29)年に開通。飯泉喜雄の私財を投じての誘致運動により我孫子の停車場ができる。停車場は志賀直哉の小説『和解』に登場。駅弁の店「弥生軒」に青年時代の山下清画伯が寄食。画伯の絵は駅弁の包装紙となり好評だった。



飯泉喜雄頭彫碑

②日立精機2号墳 《市指定文化財》

7世紀初頭の前方後円墳。長さ30m、高さ2.5m、前方部の幅21m、後円部の径18m。軟砂岩製横穴式石室。縄文土器、土師器、須恵器の埴輪が出土。

⑤武者小路実篤邸跡 (敷地内は非公開) Map A-4

武者小路実篤は白樺派の創設者。1916(大正5)年から1918(大正7)年まで居住。志賀直哉や柳宗悦と交流。ここで『日本武尊』『AとB』などを執筆。『新しき村』の建設を唱え、宮崎県木城村へ移る。

⑥嘉納後楽農園跡 Map B-4

柔道家で教育者の嘉納治五郎は、1911(明治44)年に我孫子市緑に別荘を設けた。また、山一丁目付近に約二万坪の土地を購入し農園とした。主な作物は、当時、近隣の農業では作付不能であった茄子苗や、栗南瓜であった。この農園は、嘉納の死後売却され、後に我孫子では初期の分譲地となり、「ベッドタウン我孫子」のきっかけにもなった。

⑦中勘助仮寓跡 (敷地内は非公開)

中勘助は夏目漱石の門下。1920(大正9)年から1923(大正12)年まで高嶋家に仮寓。『沼のほとり』『堤達彦多』『犬』などの作品を残す。代表作は1913(大正2)年発表の『銀の匙』。

⑧平和の記念碑(手賀沼公園)

1945(昭和20)年8月6日、広島市に原爆が投下され、多数の人命が奪われた。1985(昭和60)年に、我孫子市は広島市旧庁舎の側壁と敷石を譲り受け、平和都市宣言を行う。翌年、手賀沼公園内に「平和の記念碑」を建立。

